

第 * 回 光設計賞応募用紙

| | |
|-------|----------------------------------|
| 氏名：所属 | 連絡先：〒 Tel: Fax: E-mail: |
|-------|----------------------------------|

※複数名で応募の場合には、応募者全員の名前を書き、代表者名の右肩に丸印を付けてください

| | |
|---|---|
| タイトル | |
| 技術分類 | 1. 光学デバイス 2. 加工・測定・評価 3. レンズ/光学設計 4. ソフト 5. 設計理論 6. その他() |
| 用途・分野 | |
| 技術の概要 ・従来例 ・概略図 ・技術ポイント ・効果 | <p style="text-align: center;">応募技術のまとめを記入ください。</p> <p>伝えたい内容全ては欄内には書ききれないと思いますので、ポイントを絞ってご記入ください。 詳細データは2枚目以降に記入してください。</p> |
| 競合技術に対する優位点 | <p>従来の技術や他の競合する技術などとの差異および優劣に関するまとめを記入してください。詳細データは2枚目以降にご記入ください。</p> |
| 独創ポイント (設計思想や着想など) | <p>「独創性」の評価に対してのまとめを記入してください。「独創性」は、結果や成果だけでなく設計過程や着想方法も考慮します。 詳細データは2枚目以降に記入ください。</p> |
| 実用化への課題 | <p>「実用性」の評価に対してのまとめを記入してください。「実用性」とは、近い将来の実現可能性に加えて、従来技術と比較した効果も考慮します。 詳細データは2枚目以降に記入ください。</p> |
| 今後の展開 | <p>「将来性」の評価に対してのまとめを記入してください。「将来性」とは、実用可能性ではなく、応募技術が将来におけるトレンドとなるかどうかを考慮します。詳細データは2枚目以降に記入ください。</p> |
| 公開の状況 | <p>1. 公開済み 1-1. 公開の手段 [a. 特許 b. 論文 c. 新聞・雑誌記事 d. 製品発売 e. プレスリリース f. その他(具体的に)]</p> <p>1-2. 公開日 [年 月 日]</p> <p>2. 未公開 1-3. 特許・論文の番号、雑誌号数など []</p> <p style="font-size: small;">(注) 上で申告した公開技術情報は、全文のコピーを添付して下さい。</p> |

※将来性、独創性、実用性の観点から、アピールしたい部分をアンダーラインなどで強調して下さい

詳細データ

- ・将来性、独創性、実用性の観点から、応募技術の詳細をなるべく具体的なデータ（構成図、実験／シミュレーション結果、設計データなど）を挙げてご説明ください。
- ・記入に際してはHPに掲載の「応募用紙の書き方」もご参照ください。
- ・下欄に書ききれない場合には複数枚にわたってご記入頂いても結構です

このページ以降に下記の注意事項に沿って、応募技術の詳細内容を記入ください。

応募用紙と添付資料あわせて20ページ以内を遵守ください。

添付資料が多い場合には必要なページの選定あるいは縮小等を適宜してください。

添付資料・応募用紙共に、カラーでの応募も受け付けていますが、実行委員が特にカラー出力が必要と認める部分以外は、審査委員へ複写配布する際に白黒出力を用いることを了承ください。

「光設計賞」ですので、「設計」に対する説明をお願いします。

「設計」とは、技術の具現化における構成要素・プロセスの最適化全般を指します。「設計の結果、このようなものが可能になった。」というだけでなく、「設計に際して、このような点を考慮した」という説明や「設計解を得た際のアプローチ」、独創ポイントなどをご説明ください。また設計理論、計測技術、プロセス技術、ソフトウェア等の分野でご応募いただく際には応募される技術が「設計」に対してどのようなインパクトを与えるのかという点を十分に説明し、可能であればその技術を用いて達成された「設計」事例を示してください。

審査委員に技術の詳細を知っていただくことはもちろん重要ですが、審査の観点からは、応募技術の従来技術との比較、応募技術によって得られる可能性について、知らせることも重要です。3つの審査基準である「将来性」「独創性」「実用性」について、それぞれアンダーライン等を用いてうまくアピールしてください。

審査委員会では、応募用紙に記載された事項に基づいて審査致します。ご応募の技術が当該分野できわめて優秀であると周知されていたとしても、応募書類に未記載の事項は原則として審査において勘案致しません。

英語の論文等を添付されている方は、ポイントとなる部分の和訳を記入いただくと、審査の効率化になります。

「添付資料参照」等だけの記載では、応募技術の優れた点が伝わらない場合があります。「論文 * * のP**にあるように、・・・」、のように添付資料を引用して添付資料のどの部分を強調したいのかを明らかにしてください。